

沖縄県立教育センター長期研修検証授業

国頭村立国頭中学校教諭 Y・N

より良い食生活を目指し、工夫し創造する能力を育てる

～ 学び合いを取り入れた「B 食生活と自立」の授業を通して ～

～ 学び合いを取り入れた ～

学びを取り入れた授業を工夫することで、他者との対話を通して、お互いの考えを共有し、より一層自分の考えを深める。(研究論文「テーマ設定」より抜粋)

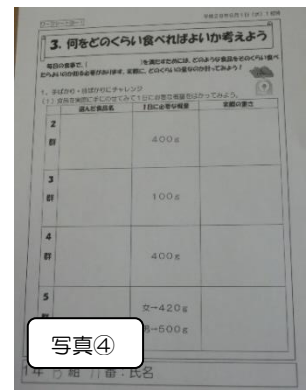
[6月1日(水)]

題材名：「何をどのくらい食べればよいか考えよう」

指導目標：食品群別摂取量の目安と1日に必要な食品の種類と概量がわかる。

[授業導入]：前時の振り返り⇒めあて⇒授業展開(進行)の確認、⇒ワークシートの使い方等

まず授業の準備がいい！つまり教材研究が密にされているということである。授業が教師の教えやすさより、生徒達の「主体的な学び合い」の授業のための準備にデザインされている。つぎに生徒たちが今日の学習課題の解決に必要とされる資料やテキストの準備に、教師の授業研究の深まりと授業への誠意が伝わる。さらに生徒と教師の関係がいいことである。教師の柔らかなふるまいや言葉が教室の空気を和ませている。…だから生徒もおだやかに居られる。



写真①



写真②



写真③

- 写真①、前時の学習の振り返りを食品カードを提示しながら確認。
- 写真②、本時のめあてや学習の進め方やキーワードの確認。
- 写真③、野菜などの食品の実物が配られる。
- 写真④、本時で生徒が活用したワークシート。

優しい教師ほど、くどい説明と分かりきった確認を繰り返す。(佐藤雅彰)
いい授業ほど教師の言葉が少ない(秋田県指導主事)

[単位量の実際を確かめる]

本時の指導案に「手ばかり」「目ばかり」という言葉がある。おもしろい学習指導の視点である。じつは、重さの単位はkgより小さいグラムや、水量のLより小さいdℓや ml の感覚は、大人さえもあまり持ち備えていない感覚である。本時の授業ですぐに計量器を使わず、食品の手ばかり、目ばかりを指示したことは、授業者の課題意識がちゃんと備わっていたことになる。生徒たちは思い思いに食品を手の上に寄せ勘を働かせる。つまり脳をアクティブに働かせ、さらに対話的コミュニケーションにより仲間に関し、確かめ、知識よりも互いの感性を磨き合う。仲間のとんでもない感性に時々笑いもありながら課題の探究が深まる。生徒は皆夢中。素晴らしい！



[モノは脳にアクティブに働く] 本時に準備されたモノが素晴らしい。まず、野菜や果物(半切りも含め)、食品カード、ワークシート、食品群一覧表(テキスト)等。なんとと言っても、野菜や果物などの食品が実物であったことがすべてである。生徒たちは食品を手に取り仲間の視線の前に差し出し聞き合い確かめ合う。モノが媒体となって学びが促進する。しかも楽しそう。

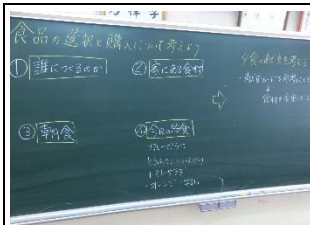
弱い子どもは、言葉や活字だけからイメージできないことが多々ある。そこに実物や半具体物があると、やはり思考が促進される。思考するとは、脳が働くことであり、つまり脳がアクティブ(能動的)を意味する。



[6月30日(金)]

題材名:「食品の購入と選択について考えよう」

指導目標:用途に応じて食品御選択ができる。

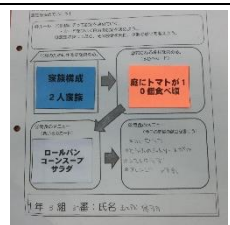


本時は、家族構成、お家にある食材、給食のメニュー等をカードで無作為に選択し、それぞれの生徒が違う条件の基、今夜の夕食を考えるという授業。当然、栄養バランスや摂取量がみんな違う課題として与えられることになる。

前ページで書いたように、教師の柔らかな対応と生徒たちの様子は抜群にいい。躊躇なくきき合い、互いに寄り添い、笑顔で対話が交わされ、取り残される生徒が一人もない。



協同と対話的コミュニケーションが
生徒に安心を与える
1年生である、小学校との連携と継続の力に関心と敬意の念を持ちたい。



[2枚の写真]
この2枚の写真の意味するものはなに？
左の写真、授業終末のしっとりとした女の子の素顔と隣の男の子のナイススマイルであるこんな素敵な表情で授業の終末を迎えることができることの意義や価値について考えたい
右の写真、国頭中の先生方すべての先生が知っておきたい、「仲間は仲間で支える」。



[ケアする]
「これまで言われてきた机間巡視とケアは何か違うのですか。」これもよくある質問です。⇒「目的が違います」
ケアは分からないことを友達に聴けなかったり、仲間との対話に入れず孤立したりして、躓きや困り感を持った生徒を仲間に「つないであげること」教師のその行為によって生徒の困り感を和らげてあげることが目的です。単純に『困り感を癒してあげる』ことです。写真の授業者の関わり方が素敵ですね。目線を同じ高さにし、柔らかい表情で生徒の話を寄り添って聴いてあげています生徒は安心を得る



[きき合う] 聴く・訊く・聞くの意味
「協同学習を始めるにあたり、何から始めたらいいですか？」よくある質問です。わたしも即答します「聴き合う関係づくり」から取り組んでください。

下の写真、教師に向けられた生徒たちの視線を「眼差し」といいます。きき合う関係の成立状態です。
素敵な関係ですね



聴く

『アクティブラーニングのイメージ』

文部科学省初等中等教育局視学官 田村学

- i 習得・活用・探究という**学習プロセスの中で**、問題発見・解決を念頭においた**深い学びの過程**が実現できているか。
- ii **他者との協働（協同）**や外界との相互的作用を通じて、**自らの考えを深める、対話的な学びの過程**が実現できているか。
- iii 子ども達が見通しを思っ**て粘り強く取り組み**、自らの学習活動をふり返って次につなげる。**主体的な学びの過程**が実現できているか。



N先生いつも素敵な授業ありがとうございます。教育センターにはセンターの研究方針やスタイルがあります。同じ研究員の先生方とチームとして互いの研究を共有し、多様な知識や見識を深めN先生のさらなる成長の糧と経験になることを期待します。「学び合い」については上記のアクティブラーニングのイメージにおいても、協働（協同）や対話が重視されています。次期指導要領の改訂に向けてすでに自分は動き出していることに自信を持ちましょう。生徒の素敵な表情にすっかり癒されました。感謝！

国頭学びの会ゆい